

里親になるまでの流れ

里親になるために、
特別な資格は、必要ではありません。

相談

児童相談所の職員から詳しく
ご説明します。

基礎研修

里親制度や子どもの養育に必
要な事柄について、研修・実
習を受講します。

登録前研修

ご家庭で里親登録についてよ
く考え、申請の意思が決まら
ば受講します。

申請

福祉事務所へ申請書を提出し
ます。

調査

児童相談所の職員による面接
や家庭訪問により、ご家庭の
状況を調査します。

審査

徳島県社会福祉審議会で調査
結果を審議します。

認定登録

県知事が認定した後、里親登
録されます。

※更新手続きがあります。

(養育里親、養子縁組里親：5年ごと、専門里親：2年ごと)

相談・お問い合わせ

里親に興味・関心のある方は
徳島赤十字乳児院（里親支援機関）まで
お気軽にお問い合わせください。
専門の職員が対応します。

▽県内子ども女性相談センター、里親支援機関でも
受け付けています。

徳島県中央子ども女性相談センター

〒770-0942 徳島市昭和町5丁目5番地の1
TEL：088-622-2205

徳島県南部子ども女性相談センター

〒774-0011 阿南市領家町野神319
TEL：0884-22-7130

徳島県西部子ども女性相談センター

〒777-0005 美馬市穴吹町穴吹字明連23
TEL：0883-53-3110

子ども家庭支援センターひかり

〒771-0131 徳島市川内町大松837-1
TEL：088-666-2211

徳島赤十字乳児院

〒773-0015 小松島市中田町字新開2番地2
TEL：0885-32-0555



ブログ、ツイッターで乳児院に関する
情報やできごとを掲載しています。



徳島赤十字乳児院

検索

「里親」に なりませんか？



里親が育てる。
社会が支える。

イラスト：里親さんへのお手紙より

いろいろな里親のかたち

里親とは、「保護者のいない児童や保護者に監護させることが不相当であると認められる児童（＝要保護児童）の養育を希望する者であって、都道府県知事が、**適当と認める者**」。事情があって、親元で暮らすことができない子どもを、一時的あるいは継続的に自身の家庭に預かり養育することを「**里親制度**」といいます。



養育里親

保護者のいない子どもや虐待などの理由により保護者が養育することが適当でない子ども（要保護児童）を養育する里親です。

専門里親

虐待を受けた子どもや障害のある子どもなど、専門的な援助を必要とする子どもを養育する里親で、3年以上里親の経験が必要です。（専門里親研修を修了し、養育に専念できることが必要です。）

親族里親

要保護児童の扶養義務者及びその配偶者である親族であって、実親の死亡や入院などにより、子どもを養育することができない場合の里親です。

養子縁組里親

養子縁組によって、子どもの養親になることを希望する里親です。

出典：「全国里親会 HP」<http://www.zensato.or.jp/>

※里親研修を受ける必要があります。

里親になるための要件

- 子どもが好きで養育についての理解や熱意をもっていること
- 経済的に困窮していないこと
- 必要な養育里親研修を修了していること
- 児童福祉法に定められている欠格事由に該当しないこと



里親をよく知るためのQ&A

Q 里親になるのに年齢の制限はありますか？

A 養育里親に制限はありません。特別養子縁組の場合は里親を希望する両親が原則25歳以上等の要件があります。

Q 預かる子どもはどのようにして決まるのですか？

A それぞれの子どもに合わせて、児童相談所が委託する里親を決定します。

Q 里親になったあとの支援はありますか？

A 相談員が家庭訪問に行ったり、里親同士の交流もあります。



里親の声

『毎日、笑って、怒って、泣いて、
落ち込んで、喜んで…』

里親歴：20年

Tさんご夫婦
(徳島県)



(全文はこちら)



里子は、親と何らかの事情で暮らせなくなった子どもたちです。親に対して、信頼も失って、私たちの家族と言われても、わけも分からない。でも、5年、10年、15年と生活していると、**自然に家族らしくなるんですね**。信頼できる人もいるんだなと思えるようになるんです。

大きくなるにつれ、反抗期にもなり、不登校にもなり、勉強についていけません。人との関わりも難しくなって、いろんな問題が出てきます。私たちも心配してあれこれ思ったり、ぶつかったり。そんなとき、悩みながらも心配してあげるのは、「**この子たちには私たちしかいないんだ**」という思いを持って毎日を過ごしているから。

私の家の里子は今も、これからも、問題もあつたりしますが、私たちも成長させてもらえる機会を与えてもらって感謝しています。

そして、私たちと里子たちの関わりは、これからもずっと続くと思っています。